

三里塚・ジェット闘争貫徹／「国鉄35万人体制」粉碎／

ぶくろうさまた... 新たな人生をお元気で!

退職者激励会

一九八一年度退職者激励会は、一月三〇日、動力車会館で開かれました。この激励会には19名の退職者が出席され、全員が即日動労千葉OB会に加入し、国鉄を退職してからもずっとOB会として動労千葉と共にがんばっていく決意が明らかにされました。

血と汗で築いた動労千葉の発展を見守ってほしい

＝ 関川委員長のあいさつ ＝

関総務部長の司会で始まり、最初に関川委員長が動労千葉を代表してあいさつしました。

委員長は、「あの忌まわしい大東亜戦争という疲弊した時代、そして蒸気機関車、気動車、電化の波を体験してこられたみなさんを送り出さねばならぬことは、感慨深いものがあります。私達は労働組合にいつ入ったのかもわからないような時代から始めて30年40年という年月を生きてきて、その上に三年前の動労『本部』との組織闘争闘戦を思い出すと涙がこぼれる思いです。私達は労働運動の本質を考えたとき、動労『本部』反動分子らとはとても一緒にやれない、やるべきではないと決意して独立しました。暴力的オルグや家庭までへの脅迫等をはね返して一人一人の意志と血と汗で築いてきた動労千葉を、若い人達が必ず発展させてくれると思います。新しい出発を、身体を大切に、いつまでも元気でがんばって下さい」と永年の労苦をねぎらいました。

OB会・林副会長、各支部代表、篠塚幕張副支部長が来賓あいさつ

続いて来賓として出席された、OB会・林副会長は、「OB会は一九七二年に退職者の交流とお互いの生活を守るために結成しました。防衛予算を見ても軍国主義そのものという状況の中で、お互いに交流し合い、運動の中から年金も獲得しなければならぬ。全員がOB会に加入し、動労千葉の発展を見守ろうではありませんか。」とあいさつしました。

また、激励会には各支部代表も出席し、代表して幕張支部の篠塚副支部長が、「永い間、後輩を指導していただき厚くお礼申し上げます。私達もいづれみなさんの立場になります。再出発の人生を健康で明るい人生にしていきたい。」と

あいさつしました。

退職しても、動労千葉発展の力になりたい

＝ 退職者代表・幕張支部・西沢利郎氏 ＝

退職者19名を代表して、幕張支部の西沢さんは、「願わばい忌まわしい大東亜戦争を経て、よくここまで勤めてこれたなと感慨にひたっている。私達は退職してもOB会に入らせてもらい、さらに動労千葉の発展に幾分かでも力になりたいと思います。」と、国鉄を退職してもなおかつ、動労千葉の組織仲間、後輩を思い、胸をうつあいさつがされました。続いて、各支部長からそれぞれの支部の退職者が紹介され、OB会・六戸会長の音頭で乾杯し、懇談会にうつりました。40年間の国鉄生活の思い出話に花を咲かせ、新しい人生に胸をはづませて語り合い、今後の健闘を誓い合って、一七時激励会を終了しました。

退職者の方に聞く

編集部では、懇談会の途中で各支部退職者の代表の方に、「国鉄40年」の感想をお聞きしました。

Iさん：中江さん達がつくった組合から、中江さん自身を含めて分かれたことは残念に思う。

Naさん：OB会も三里塚動員なんか、赤旗をたててやるべきだ。

Oさん：助士廃止反対闘争の時、本当の労働組合、労働者とは何かということに目覚めた。動労千葉が分離独立したことは、当然の成り行きですっきりしました。

Tさん：国労から分かれて機労を結成したこと、支部が動労千葉一本でまとまった時の決断力が一番印象に残ります。

Niさん：情報を早く出すことと、もっともつと下部討議をすることをアドバイスしたい。

Inさん：外から見ているほど大変ではなく、うちの支部はいつも平穏でいい所でした。

年度退職者激励会

